

韓国における「食」博物館の現状と特徴

韓 福 眞*

I. はじめに

韓国の博物館は1908年に「帝室博物館」として昌慶宮に設けられて以来、今日まで100年余りの歴史がある。現在、博物館は従来の保管・陳列を中心とした運営から、観覧者自身が五感で楽しむ展示へ、また様々なジャンルの公演が行われる触れ合いの「場」へと変貌している。今日のこのような博物館の変化は、生活のパターンや認識の変化に対応して現れる社会文化的現象だといえよう。

文化体育観光部に登録されている博物館には、国立32、公立326、私立287、大学95、計740館（2012年12月31日現在）があり、社団法人「韓国博物館協会」に登録されているのは、国立26、公立162、私立379、大学111の計678館（2014年12月31日現在）である。1996年から韓国政府は国家均衡発展計画の一環として、各地方の文化基盤施設を拡充するために、地方自治体の公立博物館の建設事業を支援（建設費の40%）している。他方私立博物館の場合、政府が登録を積極的に誘導してきた結果、博物館の数はここ10年間で3倍以上に急増した。過去に比べて経済・文化的に豊かになった韓国では、人々の興味がより細部へと複雑化すると同時に多様化している。大規模な施設や膨大な範囲のコレクションを備えた総合博物館が中心となっていた時代を経て、現在は様々なテーマを持った専門博物館が増加する傾向が見られる。このような傾向の中で注目すべき現象の一つが、食品関連の博物館の設立と拡散である。

韓国では1988年ソウルオリンピック以来食生活のレベルが向上し、くわえて食と健康への関心が高まっていった。そして1995年に地方自治制度が実施されて以降は、地域の文化施設としての博物館の建設が盛んになった。本稿では「食」の博物館の種類を「食テーマ博物館」と「食生活に関連する博物館」に分けて調査した。「食テーマ博物館」に関しては調理・加工した食品と菓子、加工してない食材、嗜好食品である酒と飲料をテーマにした博物館に限定した。「食生活に関連する博物館」は食糧と食品生産に関連のある農業、水産・海洋、そして食事に必要な器、健康と関連のある漢方と医学博物館、食生活資料が充実している民俗博物館に限定した。その結果、40館の「食テーマ博物館」、62館の「食生活に関連する博物館」を対象に調査を行った。筆者は「食」の博物館の施設、展示内容、教育プログラムなどを2005年から2014年までの期間、現地訪問して調査した。また、文化体育観光部への登録の有無、運営主体、設立

* Author : Bokjin HAN

Affiliation/Job Title : Professor, Jeonju University

年度などの項目に関しては、各館のインターネットサイトのホームページ、財団法人韓国博物館協会（<http://www.museum.or.kr>）や財団法人私立韓国博物館協会（<http://www.p-museum.org>）の資料、新聞報道資料などを参考にした。

II. 韓国の「食」博物館の種類

1. 「食」のテーマ博物館

1) 食品・菓子の博物館

韓国には調理・加工食品と菓子の博物館は12館あり、テーマとしては発酵食品であるキムチ・伝統の醬^{チャン}、麺類のマックッスとジャージャー麺、餅・韓菓・菓子・チョコレート・チーズなどがあり、包括的な分類としての伝統料理・郷土料理博物館もある。

「食」の博物館のなかで最も早い時期に設立されたのは「キムチ博物館」で、現在は(株)プルムウォン(Pulmuone)が運営している。「キムチ博物館」はソウルの市内にあるCOEXセンターに位置し、毎年10万人の訪問者がいるし、2015年4月21日にソウル市仁寺洞で「Museum キムチ間」に改名し再開館した。ほかにも、未登録のキムチ博物館がある。「韓国キムチ館」とキムチのテーマパークでは、国内外の利用客にキムチの体験教育を実施している。「淳昌醬類博物館」は朝鮮時代以来のコチュジャンの名産地として知られている全羅南道淳昌地域に位置し、伝統醬類産業の活性化するために造成された「淳昌伝統コチュジャン民俗村」がそばにある。最近設立した「世宗醬類博物館」は展示内容の充実は見られないが、醬類を作る体験イベントや教育プログラムなどを積極的に運営している。

「マックッス体験博物館」は、江原道地域の特産である蕎麦から作った麺の一種であるマックッスをはじめとする蕎麦に関するデータを展示し、マックッスを作る体験を中心に運営している。ジャージャー麺（炸醬麵）は1800年代末、開港に伴って移住してきた中国人によって持ち込まれた中華料理である。現在、韓国では1日700万食が売られていて、まさに国民に愛されている食べ物となった。こうしたジャージャー麺の博物館は、地方自治体によって1900年代初頭、中国人の客館として使われていた「共和春」という建物に、2012年にオープンした。その他に、餅博物館は多様な餅類や道具などの展示、餅作り体験教室を積極的に行っている。「韓菓博物館」は地方自治体の韓菓クラスタープロジェクトの一環として助成されたもので、体験教室と専門職技能教育の役割を担っている。「チョコレート博物館」は1997年に開館した人気の博物館で、展示コンテンツと教育プログラムが充実している。「菓子博物館」は(株)ロッテ製菓が運営する工場体験型の博物館となっている。「任實チーズ広報館」は地域の特化事業として地方自治体が造成したチーズのテーマパークの中にあり、2013年には13万人が訪問している。「南道郷土飲食博物館」は伝統料理の教育を中心に運営しており、「伝統飲食博物館」は展示の内容はさほど充実していないが、子どもを対象に体験教室を中心に運営している。



博物館名	地域
①Pulmuoneキムチ博物館	ソウル特別市
②ジャージャー麵博物館	仁川広域市
③韓国伝統飲食博物館	仁川広域市
④春川マックス体験博物館	江原 春川市
⑤世宗伝統醬類博物館	世宗特別自治市
⑥淳昌醬類博物館	全北 淳昌郡
⑦任實チーズ広報館	全北 任實郡
⑧南道郷土飲食博物館	光州広域市
⑨餅博物館	ソウル特別市
⑩韓菓文化博物館	京畿 抱川市
⑪お菓子博物館	ソウル特別市
⑫チョコレート博物館	済州 西滯浦市
計12館（食べ物8、餅菓4）	

2) 食材の博物館

農産物をテーマにした食材の博物館は米・梨・柑橘・胡桃・高麗人参などの8館と塩の博物館がある。韓国食の中で最も重要な食品は、米と大豆、ニンニクである。特に、米は韓国人の主食であるが、近年に入ってその消費が徐々に減少している。農協中央会は農業博物館併設の米博物館を2012年から運営している。サイバー（Cyber）博物館としてニンニク・大豆・米の3館があり、このなかでサイバー米博物館は農林畜産食品部の教育文化情報院が開設している。

済州特別自治道では済州特産の柑橘農園と柑橘博物館を2005年に設立し、羅州市では梨博物館を1992年に設立した。胡桃博物館は個人生産者が広報を兼ねて運営している小規模な博物館である。韓国の特産物で世界的に有名な高麗人参は、地方自治体と企業が運営するもので、博物館や展示館が3館ある。「扶餘高麗人参博物館」は、1978年に(株)韓国人参公社が造成した5万6千坪規模の高麗人参工場内に2004年オープンした博物館で、高麗人参の歴史、栽培プロセスが展示され、製造工程が見学、体験が可能となっている。朝鮮時代から有名な高麗人参の産地であった豊基が属している栄州市は、地域活性化のために2013年に「栄州高麗人参博物館」を設立した。なお、現在の高麗人参の最大生産地である錦山は、1998年以来「錦山人参総合展示館」を運営している。

韓国最大の天日塩の生産地である新安には、(株)太平塩田が塩の博物館を設立している。その他、食品のサイバー博物館には高品質ニンニクの地理的表示として登録されている義城ニンニクをプロモーションするために、義城郡が「ニンニク博物館」を開設している。韓国が大豆の宗主国であることを広報するために、国立食糧科学院がサイバー大豆博物館を運営している。サイバー大豆博物館は慶北栄州市に世界豆科学館に改名して2015年4月30日に開館した。



博物館名	地域
①米博物館	ソウル特別市
②貴族胡桃博物館	全南 長興郡
③羅州梨博物館	全南 羅州市
④柑橘博物館	済州 西帰浦市
⑤栄州高麗人参博物館	慶北 榮州市
⑥高麗人参博物館	忠南 扶餘郡
⑦錦山高麗人参総合展示館	忠南 錦山郡
⑧塩博物館	全南 新安郡
cyber世界大豆科学館 大豆博物館	京畿 水原市
cyber米博物館	京畿 安陽市
cyberこんにゃく博物館	慶北 義城郡
計8館 *cyber 3館	

3) 茶・コーヒー博物館

韩国人は嗜好食品として緑茶やコーヒーをたくさん飲む。「茶博物館」が7館、「コーヒー博物館」が2館ある。茶は三国時代に中国から仏教とともに伝わり、茶を飲む文化は高麗時代まで盛んに行われていたが、朝鮮時代に入って国家の「崇儒抑仏（儒教を尊び、仏教を抑圧）」政策によって衰退し、南部地域の一部の実学者や僧侶らにより辛うじて命脈を繋いでいた。一般的にコーヒーは朝鮮戦争以降、米軍部隊のインスタントコーヒーが伝わって普及するが、現在、韩国人が最も好む飲料となった。水は人間の生活に不可欠であり、特に茶・コーヒーの味を決める材料である。ソウル市は水道水を安心して飲める飲用水として「アリ水」というブランドを作って広報している。ソウル市は水道開通100周年記念にあわせて2008年、水道水の博物館を設立した。

韓国における茶の始培地は智異山南の麓の河東であるが、現在、生産量が多い地域は寶城と済州である。茶の博物館の3館は、すべて茶の栽培地に設立されている。河東には規模は小さいが在来種の茶畑があり、地方自治体が「河東茶文化センター」を建てて、茶文化館、展示館を運営している。また、茶の生産者が直接運営する「梅巖茶博物館」もある。寶城には改良種の大規模な茶園が多くあり、地方自治体は「韓国茶博物館」を2010年に開設している。他方、(株)アモーレパシフィックが1980年以降、やせている済州島の土地を開拓して茶園を造成し、緑茶を大衆的に普及させてきた。「オソロク（O'Sulloc）ティーミュージアム」は1991年に設立され、済州島を訪れる観光客に人気のある観光地として毎年70万人以上が利用している。釜山女子大の「茶博物館」は、豊富な茶関連遺物を所蔵しており、国内外の利用客を対象に体験プログラムを運営している。ソウル市仁寺洞にある「美しい茶の博物館」は、小規模な喫茶店とティーショップを兼ね備えていて、「金浦茶道博物館」は茶道具の展示と伝統的な礼節、茶道

の教育を行っている。

韓国のコーヒー輸入量を見ると、2007年から2011年までの5年間に210%増加しており、2013年にはコーヒー輸入国80カ国のうち、日本とロシアを抜いて6位を記録している。2000年度初頭からは、江陵に移住したコーヒー名人を中心にマニアが集まって、コーヒーに関する教育、輸入、加工、販売が行われるようになった。それによって江陵がコーヒーの名所になり、毎年、コーヒー祭が開催されている。江陵と陽平の「コーヒー博物館」はコーヒー愛好家たちが訪れる名物カフェでもあり、コーヒー関連の資料の展示やコーヒー体験などを行っていて、さらに江陵にはコーヒー栽培の農場もある。



博物館名	地域
①美しいお茶の博物館	ソウル特別市
②金浦茶道博物館	京畿 金浦市
③韓国茶博物館	全南 寶城郡
④釜山女子大茶博物館	釜山 広域市
⑤梅巖茶文化博物館	慶北 河東郡
⑥河東茶文化展示館	慶北 河東郡
⑦O' Sullocティーミュージアム	済州 西帰浦市
⑧フルツコーヒー博物館	京畿 楊平郡
⑨江陵コーヒー博物館	江原 江陵市
⑩水道水博物館	ソウル特別市
計10館（伝統茶7、コーヒー2、水1）	

4) 酒の博物館

酒をテーマにした博物館は伝統酒関連のものが7館、世界のあらゆる酒を扱ったものが2館、そしてビールに関する博物館が1館、合計10館になる。韓国では百年近く、家庭で酒を作ることが法律で堅く禁じられていたが、1986年のアジア競技大会、1988年のオリンピックを契機にして伝統酒、または民俗酒の保存と伝承が試みられ、製造技能保持者を発掘して、伝統酒を産業化することになった。安東焼酎は慶尚北道の無形文化財に指定された。技能保持者の趙玉花^{チョウオクワ}が1995年、「安東焼酎博物館」を設立した。「山査園^{サンサウエン} 伝統酒博物館」は、1996年から(株)裴商晃酒家が小規模な博物館を運営していたのを、2002年に拡張した。ここには酒類研究所もあり、展示物やプログラムが最も充実している。京畿道高陽市には、酒の製造を家業として5代続けてきた生産者が2004年に設立した「ペダリ酒博物館」があり、醸造業の近代史展示がとても充実している。

2002年、全州市の韓屋村^{ハノクマウル}に開館した「伝統酒博物館」は、韓屋村の活性化とともに訪問者が増加し、伝統酒の教育も盛んに行われている。京畿道安城市にあった酒博物館は2013年全羅

北道完州郡に所蔵品を全部寄贈し、完州郡が造成した酒のテーマパークに大韓民国酒博物館を新築し2015年6月に開館した。忠州のリクオリウム（Liquorium）と済州島の「世界の酒博物館」には、世界の酒関連情報や資料が伝統酒の資料とともに展示されている。韓国大手ビール会社である(株)OBビールは1983年、世界各国のビール製品と関連資料を収集し、利川工場内に博物館を設立した。



博物館名	地域
①ペダリ酒博物館	京畿 高陽市
②山査園伝統酒博物館	京畿 抱川市
③ビール博物館	京畿 利川市
④安城酒博物館	京畿 安城市
⑤リクオリウム(Liquorium)酒博物館	忠北 忠州市
⑥天安興タリョン館	忠南 天安市
⑦全州伝統酒博物館	全北 全州市
⑧大韓民国酒博物館	全北 完州郡
⑨安東旻酎博物館	慶北 安東市
⑩世界の酒博物館	済州 表善面
計10館（伝統酒7、世界の酒3）	

2. 食生活に関連する博物館

1) 農業博物館

農業博物館には伝統的な農業や稲作、水利施設関連の博物館が6館、現代農業のトレンドであるエコ（環境保存型）農業、有機農業博物館が2館、植物博物館が3館、合わせて11館ある。なお、各市と道など地方自治体の農業技術センターは農業科学館、または農機具展示ホールを備えているところが多い。農業博物館のうち最も古いのは1987年、農協中央会がソウル市に開館した「農業博物館」であり、展示物やプログラムが最も充実している。全羅南道の農業博物館は1993年に開館し、規模の面では最も広い。

稲作には水利が大変重要である。百済の時代であった330年に金堤で水利設備として建設された「壁骨堤」は、現在世界文化遺産への登録を推進している。1998年に開館した「壁骨堤農耕文化博物館」では稲作文化をコンテンツ化した金堤地平線祭を催していて、全国で最高の祭としての地位を確立し、多くの観覧客が訪れている。現代の有機農法をテーマにした南陽州有機農博物館は、2011年に南陽州が世界有機農大会を開催した記念に建立された世界初の有機農博物館で、後に南陽州有機農テーマパークと名称を変更した。漢江の上水道源の陽平郡はエコ農業博物館を設立した。原州、抱川、済州島には食用植物のハーブ（herb）を中心にした植物博物館が3館あり、都市生活者たちの憩いの場を提供している。

2) 水産海洋博物館

水産海洋博物館としては、海洋博物館が7館、淡水・鯨・海女のテーマが各1館と合わせて10館ある。これらすべて博物館は海に面した地域に位置している。特に、韓国第2の都市で港町でもある釜山は、「国立海洋博物館」、「海洋自然史博物館」、そしてサイバー海洋博物館や「釜山漁村民俗館」がある。

木浦には1975年、新安海底遺物探査によって発見された遺物を展示するために、発掘現場の新安に1994年に「国立海洋文化財研究所」が設立、展示館がオープンされている。新安の沖で1323年に沈没した中国の商船から引き上げられた遺物を通して、当時の東アジアの貿易品、陶磁器など、当時の生活文化を覗き見ることができる。

江原道の三陟市にある「淡水魚展示館」には、回遊魚種であるサケの一生が観察できる設備があり、捕鯨の中心地であった蔚山長生浦には、1986年の捕鯨禁止以来消えて行く捕鯨の遺物の保存のため、2005年に長生浦鯨博物館が設立された。

「海女」は海に入り海産物を採集する女性で、済州島に多く住んでいる。済州特別自治道には、強い生命力と開拓の精神を持ち備えて生活を営んできた海女の一生や、作業の道具などを展示した「海女博物館」がある。

3) 食器博物館

韓国人の食生活に使用されていた食器をその特徴と材質別に分類してみると鍮器、漆器、甕器、陶器、磁器などになる。韓国の食器博物館は27館あり、このうち陶磁器が13館と最も多く、甕器8館、鍮器2館あり、その他の食器博物館としては茶具・コップ・食器博物館・螺鈿漆器博物館がある。庶民の生活容器として最も多く使われていた甕器は、全国的に分布していて甕器専門博物館以外のほとんどのものは民俗博物館が所蔵している。

朝鮮時代に広く使われた鍮器には、パンチャ鍮器と鑄造鍮器がある。パンチャ鍮器とは、韓国特有の金属合金技術で銅78%と錫22%を混ぜた合金である「真鍮」を、火に当てながら槌で打ちつづけ薄く伸ばし形を造るもので、現在は無形文化財制度によって技能を伝承している。「安城マッチュン（誂え）」とは、「最適」という意味に使われる慣用句で、朝鮮時代にソウルの両班家と官庁で使われる鍮器のほとんどが、安城地方の工房に注文していたことから由来している。なお鍮器博物館は、安城と大邱に2館ある。

京畿道の広州は、15世紀から20世紀初頭まで朝鮮王室で使われる陶磁器を焼いていた司饗院の分院があった地域である。このような歴史的背景から、この地域に磁器博物館が4館ある。高麗時代から有名な青磁の陶窯址である全羅南道の康津、全北の扶安には「青磁博物館」があり、仁川には「緑青磁博物館」がある。庶民の生活容器として最も多く使われていた甕器は全国的に分布しているが、そのほとんどを民俗博物館が所蔵している。それでも全国に甕器博物館が8館ある。洪城で2007年に開館した「食器博物館」は、鍮器、陶磁器、食器や膳などを貯

蔵しているが、展示手法やコンテンツが不十分だ。西洋陶磁器としては、「富川ヨーロッパ磁器博物館」と金泉市の「世界陶磁器博物館」がある。

4) 健康・医学博物館

韓国の健康・医学に関連する博物館は14館ある。そのなかで主要コレクションが漢方医学関連情報である博物館は10館、残りの4館は西洋医学関連情報を扱う館で、すべて医科大学が設立した博物館である。

韓国人は「薬食同源」の思想を持ち、食生活と健康への関心が非常に高い。日常的に漢方医院で治療を受けながら病気の治療し、健康を保つための漢方薬を服用し、針の施術を受けている。そのため漢方医学と薬草に関する知識が広い。

朝鮮時代に宮廷の「御医(王の主治医)」であった許浚^{ホジュン}は1597年に王の命を受け、中国および韓国の医学書を集大成した『東醫寶鑑』を編纂した。これは2009年にユネスコ(UNESCO)世界記録遺産に登録されたが、彼の一代記は小説として執筆され、テレビドラマで放映された時には最高の視聴率を記録した。彼と縁のあるソウル市江西区と慶尚南道の山清郡には、漢方医学と薬草の資料を集めた「許浚博物館」と「山清韓医学博物館」が建てられている。

健康・医学博物館の中で最も古い「韓独医薬博物館」は、1964年に韓独薬品が初の企業博物館として設立し、貴重なコレクションを備えていて、展示内容が最も充実している。なお、私立博物館には家業として漢方薬局を7代にわたって営んでいる「春園堂博物館」がある。

朝鮮時代に漢方薬材の専門市場であった「薬令市」が、もっとも大規模に開催された地であった大邱とソウルには「薬令市博物館」が設けられている。大学に付設した「漢方医学博物館」は、慶熙大学、大邱大学、嘉泉大学にあり、特に「嘉泉博物館」には、国宝と宝物級の医学書を多く所蔵している。

5) 民俗博物館

民俗博物館は民間の生活様式、風俗、習慣と関連する資料を集め展示していて、食生活および食に関する風俗などを知ることができる。なお、山村や漁村は環境面において農村とは異なる独自の生活を営んでおり、食生活も異なっている。全国の民俗博物館のなかで食生活の道具や食生活風俗の資料が忠実にしているのは「国立民俗博物館」、「温陽民俗博物館」である。

「国立民俗博物館」は、1946年に「国立民族博物館」として開館して以来、韓国民俗の伝統的な生活文化を調査、研究、収集し、展示会と報告書、講演会の形で公開している。毎年200万人の観覧客の便宜を計るために、文化と技術を融合し、教育と娯楽を融合したコミュニケーション空間を作るために力を注いでおり、子ども博物館および仮想体験が可能な映像コンテンツを拡充、調整している。

他方、「温陽民俗博物館」は1978年に個人によって設立されたが、2万点に及ぶ関連遺物を

収集、展示している。冠婚葬祭を中心に韓国人の衣食住の生活、そして農業、釣、織物、狩猟などの生業、様々な民俗工芸品、民間信仰、娯楽および歳時風俗など、充実した資料を提供しており、2014年には「台所（Kitchen）、生活の知恵」特別展を開催した。その他に、1989年に開館したロッテワールドの民俗博物館における食生活関連資料が充実している。

3. 伝統飲食体験館

最近、韓国では幼稚園から小学生、大学生まで現場学習が活発に行われているが、その一方で、週5日制勤務の実行によって週末には家族単位での旅行の機会が増え、農家の体験や食材の収穫体験、食べ物に関する体験の需要が増えている。

農林畜産食品部傘下の農村技術センターでは、人々の健康的な食生活のための食品および食品加工教育を行い、地方自治体ごとに支援している伝統料理体験館や農家レストランが全国的に多く運営され、手軽に一般の人たちが、このような体験を経験できる。またキムチ、醬類、酒、韓菓、茶などを生産する企業や農家、個人が一般人向けの体験型イベントを多く行っている。

既存の食品関連博物館での教育や体験プログラムのなかには、餅や韓菓を作る体験や専門家養成のためのカリキュラムを設けている所もいくつかある。通年料理体験と伝統的な食事を通して体験できる場所は、平昌の静江園、慶州のスリメがある。順天の「野生茶体験館」は茶道を体験する場であり、茶葉の収穫シーズンには製茶を体験することができる。浦項の餅の経験館は子どもを中心に、多様な餅を作る体験教育を行っている。

Ⅲ. 韓国「食」の博物館の特徴

1. 「食」のテーマ博物館

- 「食」のテーマ博物館を調理・加工した食品と菓子、加工してない食材、嗜好品である酒と飲料をテーマにした博物館に限定すると、その数は2014年現在、40館である。
- テーマ別に分類すれば、食品と菓子の博物館が12館（30%）で、食材博物館が8館（20%）、茶・コーヒー博物館が10館（25%）、酒博物館が10館（25%）である。
- 40館のうち登録館は26館（65%）、未登録館が14館（35%）である。
- 運営主体は、公立15館（37.5%）、私立25館（62.5%）で、個人もしくは企業が運営する博物館が多い。
- 開館および設立年度は、1980～2000年開館が7館（17.5%）、2001～2010年開館が23館（57.5%）、2010～2014年が10館（25.0%）である。過半数以上が、2000年度の初期に開館していた。
- 地域的分布はソウル特別市6館（15%）、京畿道10館（25%；仁川広域市2館を含む）、忠

清南道 4館 (10%; 世宗特別自治市 1館を含む), 忠清北道 1館 (2.5%), 江原道 2館 (5%), 全羅北道 4館 (10%), 全羅南道 4館 (10%; 光州広域市 1館を含む), 慶尚北道 4館 (10%), 慶尚南道 1館 (釜山広域市 2.5%), 済州特別自治道 4館 (10%) である。韓国で人口の最も多いソウルと京畿道の首都圏に16館 (40.0%) が集中している。

- テーマ別特徴を調べてみると次のとおりである。

食品と菓子の博物館のテーマは、伝統発酵食品であるキムチ・伝統の醬類、麵類であるマククスとジャージャー麵、餅・韓菓・菓子・チョコレート・チーズなどがあり、包括的な分類としては伝統料理・郷土料理をテーマとしている。

食材博物館は主に農産物をテーマにしており、それは米・梨・柑橘・胡桃・高麗人参などである。なお、食品テーマのサイバー (cyber) 博物館としてニンニク・大豆・米の3館がある。

茶・コーヒー博物館のうち緑茶をテーマにしているのが7館、コーヒーをテーマにしているのが2館、水道水の博物館が1館ある。

酒博物館は伝統酒をテーマとしているのが7館、世界各国の酒を扱っているのが2館、ビールの資料館が1館ある。

2. 食生活に関連する博物館

- 食生活に関連する博物館は、食糧と食品生産に関連のある農業、水産・海洋、そして食事に必要な食器、健康に関連する漢方薬、医学に関連のある博物館に限定すると、その数は2014年現在、62館である。その他食生活に関する資料が充実な民俗博物館が6館がある。

- テーマ別に分ければ農業関連博物館が11館 (17.8%) で、水産海洋関連博物館が10館 (16.1%)、食器関連博物館が27館 (43.5%)、健康・医学関連博物館が14館 (22.6%)

- 62館のうち、登録館は57館 (91.9%)、未登録館が5館 (8.1%) である。

- 運営主体は、国立2館 (3.2%)、公立35館 (56.5%)、私立25館 (40.3%) である。

- 設立年度および開館年度は、1980~2000年が18館 (29.0%)、2001~2010年が32館 (51.6%)、2011~2014年が12館 (19.4%) である。

- 地域的分布は、ソウル特別市 9館 (14.5%)、京畿道14館 (22.6%; 仁川広域市 2館を含む)、忠清南道 4館 (6.5%; 大田広域市 1館を含む)、忠清北道 2館 (3.2%)、江原道 5館 (8.1%)、全羅北道 3館 (4.8%)、全羅南道 6館 (9.7%; 光州広域市 1館を含む)、慶尚北道 7館 (11.3%; 蔚山広域市 1館、大邱広域市 1館を含む)、慶尚南道 5館 (8.0%; 釜山広域市 2館を含む)、済州地区特別自治道 7館 (11.3%) である。韓国で最も人口の多いソウルや京畿道の首都圏に、23館 (37.1%) と集中している。

- テーマ別に特徴を調べてみると次のとおりである。

農業博物館には、伝統的な農業や稲作、水利施設に関連する博物館が6館、現代の農業

のトレンドである環境保存型農業、有機農業博物館が2館、ハーブ（herb）を集中にした植物博物館が3館、合わせて11館ある。

水産海洋博物館には、海洋博物館が7館、淡水・鯨・海女のテーマが各1館と合わせて10館あり、すべて海に面した地域に位置している。特に釜山は、韓国の第2の都市で、港町として国立海洋博物館、海洋自然史博物館、そしてサイバー海洋博物館、釜山漁村民俗館がある。

食器博物館のうち陶磁器が13館で最も多く、甕器8館、鍮器2館、その他の食器では茶具・コップ・食器博物館があり、最近、螺鈿漆器博物館が開設された。

健康・医学博物館のうち、漢方医学関連資料館が10館、西洋医学関連資料館は4館である。

以上のように、韓国の「食」博物館の約100館について現状と特徴を調べたが、館の数も少ないし、テーマも多様ではない。韓国の「食テーマ博物館」のなかで特殊なのはキムチ、マッコクス、ジャージャー麺であり、食材では高麗人參とニンニクである。「食生活に関連する博物館」のなかでは、近年になってその価値が再度認められている有機農業に関する有機農業博物館と済州島の民俗をよく表している海女博物館、朝鮮時代に始まり今日まで愛用される鍮器を扱っている鍮器博物館がある。なお、韓国では特に健康に関心が高く、漢方医学博物館が10館あるのが際立っている。

